

〈東北・新潟の活性化応援プログラム〉 2017年助成団体活動成果レポート

助成団体

特定非営利 活動法人 中越防災フロンティア

新潟県長岡市

プロジェクト名

「またくるね 今度は除雪 プロとして」 ～越後雪かき道場がつくる新しい地域防災の形～

■地域の紹介

長岡市は、日本一の大河・信濃川が市内中央を流れ、日本海・守門岳など自然環境に恵まれた都市です。電子部品や精密機械関連等で世界をリードする企業も集積し、新潟県内随一の機械工業群を形成しています。また、花火の街として全国的に有名です。

■地域の課題

少子高齢化と過疎による除雪の担い手不足
地域外から除雪ボランティアを受け入れる体制が整備されていない

■当団体の紹介

2004年に発生した中越地震を契機に、将来に希望が持てる地域づくりを目指し、地域コミュニティの維持と交流人口の拡大を図っています。その一環として、除雪作業の担い手不足解消のため、即戦力となる除雪ボランティアの育成や、除雪作業時の安全対策の啓発を行います。



■背景・目的は？

除雪対策を強化するために以下の点に力を入れて取り組んでいます。

- ①参加者 … 即戦力となり得る、除雪スキルを身につけること
- ②地 域 … 実際に地域外からの人材を受け入れることで、食事の提供者・作業時のリーダーの選定、除雪ボランティアへの指導方法を身につけること

■具体的な活動は？

(1) 実施概要

実施場所	実施日(H30年)	人数(人)	備考
山形県酒田市日向	1月20・21日	39	
新潟県長岡市川口木沢	1月27・28日	24	初級15名、上級9名
新潟県長岡市山古志	2月10・11日	27	初級17名、上級10名
長野県長野市鬼無里	2月10・11日	33	
新潟県長岡市山古志	2月17日	20	
計	5回	143	

(2) 実施内容

項目	対象	内容
初級	基礎を学びたい人	・ 指南書を用いた座学 ・ カンジキを履いてのスコップ、スノーダンプの実技訓練
中級	初級修了者・雪国での除雪作業経験者	・ 指南書を用いた座学 ・ 安全帯やロープに関する講習
上級	除雪リーダーを目指す人	・ 作業現場での除雪作業の段取りに関する講習 ・ 命綱指導方法に関する講習 ・ 筆記試験

「指南書」について・・・雪国で根づく「雪かきの極意」をボランティアにも分かりやすく伝えるために作成した冊子

(3) スケジュール例@山古志会場

日にち	時間	初 級	上 級
1日目	12:30	受付開始@あまやち会館	
	13:00	オリエンテーション	
	13:05	指南書を用いた座学	要援護者の把握 除雪計画の策定 @あまやち会館→集落内
	13:45	着替え等準備 健康雪かき体操	安全帯の装着 ロープワーク 簡易アンカーの実験
	14:00	カンジキやスコップ、スノーダンプ の実技訓練@あまやち会館周辺	
	15:00	休憩	
	15:10	道具の実技訓練を兼ねた雪積み競争 かまくらづくり	埋没者捜索 搬送訓練
	16:15	後片付け、着替え	
	16:30	入浴(フリータイム)@あまやち会館	
	18:00	地域住民の炊き出し訓練を兼ねた交流会	
	20:00	後片付け	
2日目	7:30	朝食	
	8:30	オリエンテーション 健康雪かき体操	
	9:00	班ごとに除雪作業@集落内(適宜休憩)	
	11:00	後片付け	
	11:30	自由時間@あまやち会館	
	12:00	昼食	
	13:00	解散	

(4) 参加者の声 ※各会場で実施したアンケートより抜粋

- 「雪かき=大変なだけ」という印象が、効率よくやる方法がわかると楽しい、やりがいがあると感じられるようになった。(神奈川県・40代 女性)
- スタッフ、地元の方々の雰囲気、指南書、準備体操、若い人たちの楽しそうな姿、美味しい食事、こりゃスゴイです。多くの人に体験してほしい。(岩手県・40代 女性)
- 自分の地域でも、道場を開催したい。(神奈川県・60代 男性)
- 追加料金を払ってもいいので、希望者にはもっと雪かきができるようにしてほしい。(茨城県・30代 男性、他数名)
- 雪かきをして、おばあちゃんに感謝され嬉しかった。(新潟県・20代 女性)
- 写真等たくさん撮って後で共有したい。Twitter等で開催日時のPRをしてほしい。(茨城県・30代 男性)
- 素人仕事で逆に迷惑をかけていないか心配なので、実施世帯に後日役に立ったか聞いて欲しい。
- 重労働だと実感した。高齢者1人でやっているかと思うとぞっとした。雪下しをしている人への見方が変わった。(山形県・30代 男性)

▼中・上級者

- 実際に落ちた時にどうなるのか、(命綱が)どう働いてくれるのか、身をもって経験してみたい。
- 地域の人に(命綱を)提案していこうと思います。

(5) 工夫した点

- 除雪実施家屋の選定は、地域内に不公平感がおきないように、できるだけ高齢者の1人暮らしの世帯を地域で選定してもらった。

- 各会場で積雪量や参加者のニーズに合わせて、内容を変更した。

例) 参加者の平均年齢が若く、積雪量が比較的ある会場では雪積み競争やかまくらづくり時間を長く設けた。



指南書を用いた座学



カンジキの履き方を師範よりレクチャー中



スノーダンプの実技演習@糸魚川



実技演習を踏まえてかまくら作り



ロープワーク



安全帯を装着して屋根上作業



午前中の座学で学んだことを発揮！カルタ大会



長谷川工業さまと共同開発のハンゴをお披露目

■活動の成果は？

- 炊き出し訓練を兼ねた交流会のための食事提供者や、除雪作業のリーダーを決めることで、地域の中で有事の際の役割分担が明確になりました。
- 参加者との触れ合いの中で、住民がこれまで「当たり前」だと思っていた雪かきが、お金を払ってでもしたいことであることが分かったこと等、雪国の魅力を再発見する事につながりました。
- 上級コースへの参加後、糸魚川市等、単独開催(暖簾分け)を希望する地域が出てくるなど、これまで自助及び互助とするものとされてきた除雪の担い手不足を、地域外のボランティアを育成することで解消しようとする、新しい地域防災の思想とそのための体制づくりを広域に普及することが出来ました。

今回の助成金により、指南書の増刷やバージョンアップした安全帯を購入することが可能となり、それらを各会場で使用することでより多くの方に除雪作業時の安全対策の普及をすることが出来ました。また、大手気象予報会社(ウェザーニューズ)が真夏に幕張メッセで主催した「そら博」にもブースを出展し雪に馴染みのない方や多くのお子様にも、楽しく雪かきについて知ってもらうことが出来たことなど、自己資金のみでは到底できない普及活動が可能となりました。

団体からのコメント

除雪作業時の三種の神器（安全帯、アンカー、ハシゴ）の開発を進めます。

特に屋根の上で安全に除雪作業をするのに必要なアンカーを低価格で開発することと、安全帯の正しい使用方法の啓発を合わせて行い、アンカー設置家屋を増やしていくことで、より安全に地域住民や除雪ボランティアが作業できることを目指します。

スタートから10年がすぎ、開催地の高齢化もさらに進み協力体制も変化しつつあります。地元の協力度は参加者の満足度にも密接につながっており、地元の協力が得づらくなってきた地域においては今後どのように事業を進めていくかが課題です。

2018年度より当NPOが長岡市と共働で進めている「山古志地域における有償除雪ボランティアのマッチング・派遣システム」の構築事業と連携し、除雪ボランティアの育成の場という役割をこれからも担っていきます。

「越後雪かき道場®」のような活動を除雪の担い手不足に悩む全国の豪雪地に展開するため、各地に運営のノウハウを伝授する「のれん分け」制度を展開していきます。

